

(2) 水 稲

防除法	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 ばか苗病 <i>Gibberella fujikuroi</i> ごま葉枯病 <i>Cochliobolus miyabeanus</i> いもち病 <i>Pyricularia oryzae</i> (種子消毒)	1. 種籾は、ばか苗病、ごま葉枯病、いもち病の発生の少ない圃場から採種する。 2. 塩水選を行う。 ・うるち：ポーメ比重1.13 (水10リットル当たり食塩2.6kg) ・もち：ポーメ比重1.08 (水10リットル当たり食塩1.6kg) 3. ばか苗病、いもち病は温湯種子消毒をする(普通作物参考6参照)。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●浸種前(湿粉衣) 1. 塩水選後、十分に水洗・水切りした後に乾かす。種籾重量の約3%の水を添加し適度に湿らせた状態で薬剤を粉衣する(普通作物参考1参照)。 2. 薬剤は均一に付着させた後、日陰で十分に乾燥し、固着させる。 3. 浸種は、粉衣処理した籾量の2倍の水で浸漬し、24時間は水を取り替えず攪拌しない。 4. トリフミンの処理により、初期生育が遅延することがあるが、回復するので通常の管理を維持する。 5. タフブロックはばか苗病、いもち病に登録がある。 6. タフブロックSPは苗立枯病(フザリウム菌、リゾープス菌、トリコデルマ菌)に登録がある。 ●浸種前(浸漬処理) 1. 薬液と種子は容量で1:1とし、薬液に種子を浸漬する。 2. 消毒中、液温は15℃以下にならないようにする。 3. 消毒後は水洗いしない。 4. テクリードCフロアブルを亜鉛製の器具では使用しない。 5. 水和剤を使用する場合は消毒中に沈殿するので数回攪拌する。消毒後は水洗いせずに種籾が十分乾くまで陰干する。 6. トリフミン乳剤、スポルタック乳剤、ヘルシード乳剤、ヘルシードTフロアブル、テクリードCフロアブルは、消毒中の攪拌と消毒後の陰干はしなくてよい。 7. 浸種は、種籾量の約2倍の水に浸し、24時間は水を取り替えず、攪拌しない。 8. トリフミン乳剤・水和剤、スポルタック乳剤、ヘルシード乳剤、ヘルシードTフロアブル、テクリードCフロアブルの処理により、初期生育が遅延することがあるが、回復するので通常の管理を維持する。 9. 種子消毒剤の廃液については、周辺環境に対する影響を及ぼさないよう、中和、加水分解、酸化、還元その他の方法により適正に処理する。 10. 一度に大量の種子消毒剤の廃液が生じる場合には、廃液専用の処理装置を設置し、適正に処理する。 11. エコホープDJ、タフブロックはばか苗病、いもち病に登録がある。 12. タフブロックは苗立枯病(フザリウム菌、リゾープス菌、トリコデルマ菌)に登録がある。 ●浸種前(種子吹付処理) 1. 所定の希釈液を乾燥籾1kgに対して所定量を使用する。 2. 専用の種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥させる。 3. タフブロックSPはばか苗病、いもち病に登録がある。 4. タフブロックSPは苗立枯病(フザリウム菌、リゾープス菌、トリコデルマ菌)に登録がある。 ●浸種前(種子塗沫処理) 1. 所定の希釈倍数液を乾燥籾1kgに対して所定量を使用する。 2. 適当な容器内で種籾を攪拌しながら、薬液を滴下するなどして種籾に均一に付着させる。 3. タフブロックSPはばか苗病、いもち病に登録がある。 4. タフブロックSPは苗立枯病(フザリウム菌、リゾープス菌、トリコデルマ菌)に登録がある。	浸種前 (湿粉衣)	3 BM2 M3・1 M1・12・3	トリフミン水和剤 (生)タフブロック (混)ベンレートT水和剤20 (混)モミガードC水和剤 このほか以上を含む混合剤
		浸種前 (高濃度短時間 浸漬処理)	3 3 3 3 BM2 BM2 M3・1 M1・3 M3・3	トリフミン乳剤 トリフミン水和剤 スポルタック乳剤 ヘルシード乳剤 (生)タフブロック (混)ベンレートT水和剤20 (混)テクリードCフロアブル (混)ヘルシードTフロアブル このほか以上を含む混合剤
		浸種前 (低濃度長時間 浸漬処理)	3 3 3 3 BM2 BM2 M1・3 M3・3 M1・12・3 M1・12・3	トリフミン乳剤 トリフミン水和剤 スポルタック乳剤 ヘルシード乳剤 (生)エコホープ (生)エコホープDJ (生)タフブロック (混)テクリードCフロアブル (混)ヘルシードTフロアブル (混)モミガードC水和剤 (混)モミガードC・DF このほか以上を含む混合剤
		浸種前 (種子吹付処理)	3 3 3 3 BM2 M3・1 M1・3 M3・3 M1・12・3 M1・12・3	トリフミン乳剤 トリフミン水和剤 スポルタック乳剤 ヘルシード乳剤 (生)タフブロックSP (混)ベンレートT水和剤20 (混)テクリードCフロアブル (混)ヘルシードTフロアブル (混)モミガードC水和剤 (混)モミガードC・DF このほか以上を含む混合剤
浸種前 (種子塗沫処理)	3 3 3 M3 BM2 M3・1 M1・3 M3・3 M1・12・3 M1・12・3	トリフミン乳剤 スポルタック乳剤 ヘルシード乳剤 キヒゲンR-2フロアブル (生)タフブロックSP (混)ベンレートT水和剤20 (混)テクリードCフロアブル (混)ヘルシードTフロアブル (混)モミガードC水和剤 (混)モミガードC・DF このほか以上を含む混合剤		

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

水稲

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除				
		防除時期	RACコード	薬 剤		
2 心枯線虫病 <i>Aphelenchoides besseyi</i> (種子消毒) (本田防除)	1. 発病があった圃場からは、採種しない。 2. 黒点米の発生田からは、採種しない。 3. 温湯種子消毒をする（普通作物参考6参照）。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 浸漬処理は、薬液と種子は容量で1：1として所定時間浸漬する。消毒中、液温は15℃以下にならないようにする。 2. 吹付処理は、ばか苗病等の種子消毒の注意事項参照。	浸種前 (浸漬処理)	1B	スミチオン乳剤		
		浸種前 (種子吹付処理)	1B	スミチオン乳剤		
		移植前 育苗箱処理	1A 1B	オンコル粒剤5 スミチオン乳剤 このほか以上を含む混合剤		
		穂揃期	1B	スミチオン乳剤		
3 苗立枯病 <i>Fusarium spp.</i> <i>Phytophthium litoreale</i> <i>Pythium spp.</i> <i>Rhizopus spp.</i> <i>Trichoderma viride</i> <i>Mucor fragilis</i> <i>Phoma sp.</i>	1. 畑作跡の土の使用を避ける。 2. リゾプス菌は、30℃以上になると発病しやすいので出芽時の温度管理には注意する。なお、古むしろ等の使用を避ける。 3. トリコデルマ菌は、25～30℃で出芽期間の長い場合に発生が多い。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●浸種前（種子吹付処理） 1. 所定の希釈液を乾燥粒1kgに対して所定量を使用する。 2. 専用の種子消毒機を使用し、種粒に均一に付着させて乾燥させる。 3. モミガードC・DFはフザリウム菌、トリコデルマ菌に有効である。 ●播種前（育苗用資材の消毒） 1. 育苗箱を瞬間浸漬するか、またはジョウロで十分散布する。 2. やむをえず、保温用古むしろを用いる場合は、ケミクロンG5,000倍液をジョウロで十分にかける。 3. 消毒作業は日かげで行い、金属類を使用した場合は必ずよく水洗いをする。 4. 本剤取扱上の注意はⅢ-15. 農業用資材の消毒の項を参照。 ●播種前、播種時及び発病初期 1. 育苗マット等の保水性の高い資材を使用する場合は液剤を使用する。 2. タチガレン、タチガレエースMはフザリウム菌とピシウム菌に、ダコニールはリゾプス菌（白カビ）に有効である。ダコレートはリゾプス菌、トリコデルマ菌、フザリウム菌に有効である。バリダシンはリゾクトニア菌、白絹病菌に有効である。キヒゲンR-2フロアブルはピシウム菌に有効である。	浸種前 (浸漬処理)	M1・12・3	(混)モミガードC・DF		
		浸種前 (種子吹付処理)	M1・12・3	(混)モミガードC・DF		
		播種前 (種子塗抹処理)	M3	キヒゲンR-2フロアブル		
		播種前 (育苗用資材の消毒)	- -	ケミクロンG イチバン乳剤		
		播種前 (床土混和)	32 32・4	タチガレン粉剤 (混)タチガレエースM粉剤 このほか以上を含む混合剤		
		播種時	1 U17	ベンレート水和剤 ナエファインフロアブル		
		播種時～ 緑化期	M5 M5・1	ダコニール1000 (混)ダコレート水和剤		
		播種時～ 発病初期	32 U18 32・4	タチガレン液剤 バリダシン液剤5 (混)タチガレエースM液剤 このほか以上を含む混合剤		
		4 いもち病 <i>Pyricularia oryzae</i> (葉いもち)	1. 育苗期に窒素質肥料を過用しない。 2. 病苗は本田に植えない。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. フジワングリ剤は緑化始期に使用するとムレ苗防止に効果がある。 2. いもち病の対策は普通作物参考2を参照。	移植前 育苗箱処理	6 P2 P2 P2 P2 P3 P3 P3 P3 P3 P3 P3 P8 16.1 16.1 16.3	フジワングリ剤 オリゼメート粒剤 Dr.オリゼ箱粒剤 ファーストオリゼ箱粒剤 ビルダー粒剤混合剤 ブイゲット箱粒剤 ブイゲットフロアブル ルーチン粒剤 ルーチンフロアブル ルーチン箱粒剤混合剤 スタウト箱粒剤混合剤 ブーン箱粒剤 ビーム粒剤 デジタルコラトップ箱粒剤混合剤 ゴウケツ箱粒剤混合剤 このほか以上を含む混合剤
				播種後覆土前	24	カスミン液剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

水稲

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
	<p>1. 本田に珪カルまたは含鉄資材を施用する。</p> <p>2. 合理的な水管理を行い、健全な生育を図る。</p> <p>3. 本田肥料は基肥、穂肥を主体とし、分けつ期には施用しないようにする。</p> <p>（薬剤使用の特記事項）</p> <p>1. 粒剤の施用は、3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、施用後少なくとも1週間以上は、落水とかけ流しはしない。</p> <p>2. オリブライト1キロ粒剤・250Gは急激な温度上昇がおこる気象条件下では、葉に褐点を生じやすいので注意する。</p> <p>3. いもち病多発地帯では、耐性菌回避のため同一系統の薬剤を連用しない。</p> <p>4. いもち病抵抗性品種については、普通作物参考2参照。</p> <p>5. バック剤等の注意事項は、普通作物参考5参照。</p>	<p>生 育 期 初発前～初発頃</p>	<p>1 6 6 6 6 11 11 11 16.1 16.1 16.1 16.1 16.1 16.1 16.1 16.1 16.1 16.3 24 24 U16 P2 P2 11・ー 24・16.1 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1</p>	<p>トップジンフロアブル混合剤 フジワロン乳剤 フジワロン粒剤 フジワロン1キロ粒剤 フジワロンパック オリブライト250G アミスターSE混合剤 アミスターSC混合剤 オリザトップパックス ラブサイドフロアブル ラブサイド粉剤DL ビーム粉剤DL コラトップ粒剤5 コラトップ1キロ粒剤12 コラトップジャンボP コラトップ豆つぶ ゴウケツパックス カスミン液剤 カスミン粉剤混合剤 トライフロアブル オリゼメート粒剤 オリゼメート1キロ粒剤 ワイドパンチ豆つぶ (混)ダブルカットフロアブル (混)ブラシン水和剤混合剤 (混)ブラシンフロアブル (混)ブラシン粉剤DL (混)ノンブラスフロアブル このほか以上を含む混合剤</p>
(穂いもち)	<p>1. 合理的な水管理を行い、健全な生育を図る。</p> <p>2. 穂肥の施用量は稲の状態、天候等を考慮して適量をこえないようにする。</p> <p>（薬剤使用の特記事項）</p> <p>●出穂前</p> <p>1. 粒剤の施用は、3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、施用後は少なくとも1週間以上は、落水やかけ流しはしない。</p> <p>2. バック剤等の注意事項は、普通作物参考5参照。</p> <p>●出穂直前～穂揃期</p> <p>1. 穂揃期以降も雨天が続き、多発が予想され、なお防除が必要なときは、穂揃期の10日後までに散布する。穂揃期の15～20日以後の散布は効果が低い。</p>	<p>出 穂 前</p>	<p>6 6 6 16.1 16.1 16.1 16.1 16.3 16.3 P2 P2</p>	<p>フジワロン粒剤 フジワロン1キロ粒剤 フジワロンパックス コラトップ粒剤5 コラトップ1キロ粒剤12 コラトップジャンボP コラトップ豆つぶ サンブラス粒剤 ゴウケツ粒剤 オリゼメート粒剤 オリゼメート1キロ粒剤 このほか以上を含む混合剤</p>
		<p>出 穂 直 前</p>	<p>6 11 11 16.1 16.1 16.1 24 24 U16 24・16.1 24・16.1 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1</p>	<p>フジワロン乳剤 アミスターSE混合剤 アミスターSC混合剤 ラブサイドフロアブル ラブサイド粉剤DL ビーム粉剤DL カスミン液剤 カスミン粉剤混合剤 トライフロアブル (混)ダブルカット粉剤DL (混)ダブルカットフロアブル (混)ブラシン水和剤混合剤 (混)ブラシンフロアブル (混)ブラシン粉剤DL (混)ノンブラスフロアブル このほか以上を含む混合剤</p>

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

水稻

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
5 紋枯病 <i>Thanatephorus cucumeris</i>	<p>1. 施肥、水管理を適正に行い、稲の生育が過剰繁茂にならないようにする。</p> <p>〈薬剤使用の特記事項〉</p> <p>●早期・短期：出穂15～10日前 普通期：出穂25～15日前</p> <p>1. 粒剤の施用は、3 cm以上の湛水状態で均一に散布し、施用後は少なくとも1週間以上は、落水やかけ流しはしない。</p> <p>2. 紋枯病が垂直進展期に入る出穂期直前以降では効力が低下する。</p> <p>3. バック剤等の注意事項は、普通作物参考5参照。</p> <p>●出穂期頃</p> <p>1. 株全体に均一にかかるように、ていねいに散布する。</p> <p>2. 多発生が予想されるときは、出穂直前にも散布する。</p> <p>3. 出穂後まん延の兆しがみえ、散布の必要を認めた場合は遅くとも出穂10日後までに散布する。</p> <p>4. 防除の目安：普通期栽培では出穂20日前で、発病株率10～20%、出穂10日前で発病株率25%である。</p>	移植前 育苗箱処理	7 7 7 7	リンバー箱粒剤 グレータム箱粒剤 エバーゴル箱粒剤 モンガレス箱粒剤 このほか以上を含む混合剤
		早期・短期 ：出穂15～ 10日前	3 7 7	モンガリット粒剤 モンカット粒剤 リンバー粒剤
		普通期 ：出穂25～ 15日前	7 11 11	リンバー1キロ粒剤 オリブライト1キロ粒剤 オリブライト250G このほか以上を含む混合剤
		早期・短期 ：出穂5日前 ～出穂期 普通期 ：出穂15 ～5日前	7 7 7 7 11 11 20 20 U18 U18 U18	バシタック水和剤75 バシタックゾル モンカット水和剤 モンカットフロアブル モンカットファイン粉剤20DL アミスターSE混合剤 アミスターSC混合剤 モンセレンフロアブル モンセレン粉剤DL バリダシン液剤5 バリダシン粉剤DL バリダシンフロアブル混合剤
6 ごま葉枯病 (穂枯れ) <i>Cochliobolus miyabeanus</i>	<p>1. 本田に珪カルや含鉄資材を施用する。</p> <p>2. 水管理に注意して根ぐされを防止する。</p> <p>3. 肥料の分施割合に注意し、出穂後の極端な肥料切れを起こさないようにする。</p> <p>〈薬剤使用の特記事項〉</p> <p>●播種前～移植当日</p> <p>1. 嵐箱粒剤の播種前処理は育苗箱の床土に均一に混和し、播種時処理は育苗箱の上から均一に散布する。</p> <p>●葉のごま葉枯病、穂枯れ</p> <p>1. ブラシフロアブル・粉剤DL、ノンブラスフロアブルは変色米にも登録がある。</p> <p>2. バック剤等の注意事項は、普通作物参考5参照。</p>	播種前 ～移植当日	P2 P3 P3 P8	D r . オリゼ箱粒剤 ルーチン粒剤 スタウト箱粒剤混合剤 ブーシン箱粒剤 このほか以上を含む混合剤
		葉のごま葉枯病 ：幼穂形成期 ～穂ばらみ期 穂枯れ ：穂揃期～乳熟 期1～2回	3 11 11 11 16.1 U16 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1 U14・16.1	モンガリット粒剤 オリブライト1キロ粒剤 オリザトップバック アミスターエイト ビーム粉剤DL トライフロアブル (混) ブラシフロアブル (混) ブラシ水和剤混合剤 (混) ブラシ粉剤DL (混) ノンブラスフロアブル このほか以上を含む混合剤
		浸種前 (湿粉衣)	31 BM2 M3・1 M1・12・3	スターナ水和剤 (生) タフブロック (混) ペンレートT水和剤20 (混) モミガードC水和剤 このほか以上を含む混合剤
		浸種前 (浸漬処理)	31 31 BM2 BM2 BM2 M1・3 M3・3 M1・12・3 M1・12・3 -	スターナ水和剤 スターナSE混合剤 (生) エコホープ (生) エコホープDJ (生) タフブロック (混) テクリードCフロアブル (混) ヘルシードTフロアブル (混) モミガードC水和剤 (混) モミガードC・DF シードラック水和剤 このほか以上を含む混合剤
7 もみ枯細菌病 <i>Burkholderia glumae</i> <i>B. gladioli</i>	<p>1. 発病圃場から採種しない。やむを得ず採種する場合は、先に健全なか所を刈取り、採種する。</p> <p>2. 風選を十分に行う。</p> <p>3. 比重1.13以上で塩水選を行い、保菌粒を除去する。</p> <p>4. 苗腐敗症は高温(30℃以上)で出芽期間が長い場合に発生が多いので、出芽時の温度管理に注意する。</p> <p>5. 苗床面の凹部に苗腐敗症が発生しやすいので、播種時に苗床面を均平にする。</p> <p>6. 深水や冠水状態になると発病が多くなるので移植直後や直播栽培では浅水とする。</p> <p>7. 発病のひどいか所は刈取前に取り除き、堆肥にする。</p> <p>8. 発病圃地の籾がら、稲わらは処分する。</p> <p>9. 温湯種子消毒をする(普通作物参考6参照)。</p>	浸種前 (湿粉衣)	31 BM2 M3・1 M1・12・3	スターナ水和剤 (生) タフブロック (混) ペンレートT水和剤20 (混) モミガードC水和剤 このほか以上を含む混合剤
		浸種前 (浸漬処理)	31 31 BM2 BM2 BM2 M1・3 M3・3 M1・12・3 M1・12・3 -	スターナ水和剤 スターナSE混合剤 (生) エコホープ (生) エコホープDJ (生) タフブロック (混) テクリードCフロアブル (混) ヘルシードTフロアブル (混) モミガードC水和剤 (混) モミガードC・DF シードラック水和剤 このほか以上を含む混合剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

水稲

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
	<p>〈薬剤使用の特記事項〉 ●浸種前（湿粉衣） 1. ばか苗病等の注意事項を参照。（普通作物参考1参照） ●浸種前（浸漬処理） 1. ばか苗病等の注意事項を参照。 ●浸種前（種子吹付処理） 1. 専用の種子消毒機を使用する。 ●播種前（苗腐敗症対策） 1. 育苗培土に均一に混和する。 ●出穂前 1. オリゼメート粒剤は穂枯れにも登録がある。 ●出穂期 1. 出穂期に高温で適度の雨があると発生しやすいので、穂揃期までに散布する。</p>	浸種前 (種子吹付処理)	31 31 BM2 M1・3 M3・1 M1・12・3 M1・12・3	スターナ水和剤 スターナSE混合剤 (生)タフブロックSP (混)テクリードCフロアブル (混)ベンレートT水和剤20 (混)モミガードC水和剤 (混)モミガードC・DF このほか以上を含む混合剤
		浸種前 (種子塗沫処理)	31 31 BM2 M1・3 M3・1 M1・12・3 M1・12・3	スターナ水和剤 スターナSE混合剤 (生)タフブロックSP (混)テクリードCフロアブル (混)ベンレートT水和剤20 (混)モミガードC水和剤 (混)モミガードC・DF このほか以上を含む混合剤
		播種前 (苗腐敗症対策)	24 P3 P3	カスミン粒剤 ルーチン箱粒剤混合剤 スタウト箱粒剤混合剤
		播種後覆土前	24 P3 P3	カスミン液剤 ルーチン箱粒剤混合剤 スタウト箱粒剤混合剤
		移植前 育苗箱処理	16.3 P2 P2 P2 P3 P3 P8	ゴウケツ箱粒剤混合剤 オリゼメート粒剤 Dr.オリゼ箱粒剤 ビルダー粒剤混合剤 ルーチン粒剤 スタウト箱粒剤混合剤 ブーン箱粒剤 このほか以上を含む混合剤
		出穂前	P2 P2 16.1 16.3 16.3	オリゼメート粒剤 オリゼメート1キロ粒剤 コラトップ粒剤5 ゴウケツ粒剤 ゴウケツパック このほか以上を含む混合剤
		出穂期	24・16.1 24・16.1 U14・16.1	(混)カスラブサイド粉剤3DL (混)ダブルカット粉剤3DL (混)ブラシンフロアブル このほか以上を含む混合剤
		8 内穎褐変病 <i>Pantoea ananatis</i>	1. 穂肥施用期の窒素の多用は発生を助長するので、窒素過多にならないようにする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 出穂期に高温で適度の雨があると発生しやすいので、穂揃期までに散布する。	移植前 育苗箱処理
	播種前 ～移植当日	P3 P3	ルーチン粒剤 スタウト箱粒剤混合剤	
	出穂前	16.3 16.3	ゴウケツ粒剤 ゴウケツパック	
	出穂期	24・16.1 24・16.1 U14・16.1	(混)カスラブサイド粉剤3DL (混)ダブルカット粉剤3DL (混)ブラシン粉剤DL このほか以上を含む混合剤	

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

水稻

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
11 ニカメイチュウ (第1世代)	1. 施肥管理を適正に行い、稲が過繁茂にならないようにする。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●浸種前(種子吹付処理または塗沫処理) 1. ばか苗等の種子消毒の注意事項を参照。 ●7月第4半旬 1. 防除の目安：第1世代防除時期で被害茎率3～9%である。 2. ニカメイチュウは第1世代の場合、発生が少ないところでは被害茎のみられる部分の周辺散布でもよい。 3. パック剤等の注意事項は、普通作物参考5参照。	浸種前 (種子吹付処理 または塗沫処理)	28	ル ミ ビ ア F S
		移植前 育苗箱処理	1A 2B 4A 4A 4F 5 5 28 28 28 UN 28・9B	グランドオンコル粒剤 プリンス粒剤 ダントツ箱粒剤 スターダム箱粒剤 リディア箱粒剤 スピノエース箱粒剤 ディアナ箱粒剤混合剤 フェルテラ箱粒剤 パディート箱粒剤 ヨーバル箱粒剤 アレス箱粒剤 ミネクトスター顆粒水和剤 このほか以上を含む混合剤
		7月第4半旬	3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 5 14 14 14 14 18 18 18	トレボン粒剤 なげこみトレボン ダントツH粉剤DL アルバリン粒剤 スタークル粒剤 アルバリン粉剤DL スタークル粉剤DL ディアナSC パダン粒剤4 パダン1キロ粒剤 パダンSG水溶剤 パダン粉剤DL ロムダンゾル ロムダン粉剤DL ランナー粉剤DL このほか以上を含む混合剤
ニカメイチュウ (第2世代)	〈薬剤使用の特記事項〉 1. 防除の目安：第1世代末期で被害茎率1.0～3.5%、被害株率10～12%である。 2. 第2世代の成虫最盛期は普通期8月第4半旬であるが、年によって変動があるので発生に注意し、適期に防除する。	8月第4半旬	4A 4A 4A 4A 4A 5 14 14 14 14 18 18 18	ダントツH粉剤DL アルバリン粒剤 スタークル粒剤 アルバリン粉剤DL スタークル粉剤DL ディアナSC パダン粒剤4 パダン1キロ粒剤 パダンSG水溶剤 パダン粉剤DL ロムダンゾル ロムダン粉剤DL ランナー粉剤DL このほか以上を含む混合剤
12 トビイロウンカ セジロウンカ	1. 密植及び窒素肥料の過用を避け、稲が過繁茂にならないようにする。 2. 落水時期に注意して根を傷めないようにする。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●浸種前(種子吹付処理または塗沫処理) 1. ばか苗等の種子消毒の注意事項を参照。 ●移植前育苗箱処理 1. オンコル粒剤5、グランドオンコル粒剤は、セジロウンカに登録がある。	浸種前 (種子吹付処理 または塗沫処理)	4E	ル ミ ス パ ン ス F S
		移植前 育苗箱処理	1A 1A 2B 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4E 9B UN 4A・5	オンコル粒剤5 グランドオンコル粒剤 プリンス粒剤 アドマイヤー顆粒水和剤 アクタラ箱粒剤 ダントツ箱粒剤 ダントツ水溶剤 アルバリン箱粒剤 スタークル箱粒剤 スターダム箱粒剤 ゼクサロン箱粒剤 チェス粒剤 アレス箱粒剤 (混)ガードナーフロアブル このほか以上を含む混合剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

水稲

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
14 イチモンジセセリ (イネツトムシ)	1. 移植時期の遅い作型や窒素過多田で多発するので、肥培管理に注意する。	移植前 育苗箱処理	5 5 28 28 28・9B	スピノエース箱粒剤 ディアナ箱粒剤混合剤 フェルテラ箱粒剤 パディート箱粒剤 ミネクトスター顆粒水和剤 このほか以上を含む混合剤
		本田初期	5 14	ディアナ S C パダン粒剤 4 このほか以上を含む混合剤
		イチモンジセセリの第2世代ふ化期 ～若齢幼虫	5 14 14 18 18 18	ディアナ S C パダン S G 水溶剤 パダン粉剤 D L ロムダンゾル ロムダン粉剤 D L ランナー粉剤 D L このほか以上を含む混合剤
15 フタオビコヤガ (イネアオムシ)	1. 中山間部に発生が多い。 (薬剤使用の特記事項) ●浸種前(種子吹付処理または塗沫処理) 1. ばか苗等の種子消毒の注意事項を参照。	浸種前 (種子吹付処理 または塗沫処理)	28	ルミビア F S
		移植前 育苗箱処理	1A 2B 4A 4A 4A 4A 4A 4F 5 5 28 28	グランドオンコル粒剤 プリンス粒剤 ダントツ水溶剤 ダントツ箱粒剤 アルバリン箱粒剤 スタークル箱粒剤 スターダム箱粒剤混合剤 リディア箱粒剤 スピノエース箱粒剤 ディアナ箱粒剤混合剤 フェルテラ箱粒剤 パディート箱粒剤 このほか以上を含む混合剤
		幼虫発生初期	1B 1B 3A 4A 4A 4A 4A 4A 5 14 14 3A・4A	スミチオン乳剤 エルサン粉剤 3 D L トレボン粉剤 D L ダントツ粉剤 D L ダントツ H 粉剤 D L アルバリン粉剤 D L スタークル粉剤 D L スタークル粒剤混合剤 ディアナ S C パダン粒剤 4 パダン粉剤 D L (混)トレボンスターフロアブル このほか以上を含む混合剤
16 イネカラバエ	1. 移植時期の遅い作型や窒素過多田で多発するので、肥培管理に注意する。 2. 晩期栽培は特にイネクロカラバエの被害が大きい。	移植前 育苗箱処理	1A 4F	グランドオンコル粒剤 リディア箱粒剤 このほか以上を含む混合剤
17 イネヒメハモグリバエ	1. 健全な苗を植え、傷みを避ける。 2. 深水管理は発生が多くなるので、できるだけ浅水管理にする。 3. 畦畔雑草を処理して、越冬虫の密度を下げる。	移植前 育苗箱処理	1A 2B 4A 4F 28	オンコル粒剤 5 プリンス粒剤 ダントツ箱粒剤 リディア箱粒剤 パディート箱粒剤 このほか以上を含む混合剤
		発生初期	14	パダン粉剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

水稲

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
18 カメムシ類	<p>1. 出穂期の雑草処理は水田への飛び込みを助長するので、出穂10日～1週間前頃に処理をする（斑点米カメムシ類）。</p> <p>2. 増殖源である雑草地や農道を含めて、広範囲に一斉除草すると効果が高い。</p> <p>3. イネカメムシ、クモヘリカメムシは、水田に侵入した成虫が出穂後の穂を吸汁することで不稔も引き起こす。</p> <p>4. ミナミアオカメムシは早期、短期栽培で増殖し、普通期栽培での発生が多い。また、水稲で増殖できるために発生期間が長く、斑点米を発生させる能力も高いので、黄熟期以降の発生にも注意する。</p> <p>5. ミナミアオカメムシはひこばえで増殖するので、早期、短期水稲を刈り取った後のひこばえをすき込む。</p> <p>〈薬剤使用の特記事項〉</p> <p>1. イネクロカメムシは主に株元で生息しているので、薬剤が虫体に十分付着するよう、ていねいに散布する。</p> <p>2. イネクロカメムシが多発生した場合は、6月中旬までに防除する。</p> <p>3. イネクロカメムシの発生が少ない場合は、額縁防除（畦畔から1m以内を防除）でよい。</p>	<p>移 植 前 育 苗 箱 処 理 (イネクロ カメムシ)</p>	<p>2B 4A 4A 4A</p>	<p>プ リ ン ス 粒 剤 ア ル バ リ ン 箱 粒 剤 ス タ ー ク ル 箱 粒 剤 ス タ ー ダ ム 箱 粒 剤 こ の ほ か 以 上 を 含 む 混 合 剤</p>
		<p>イネクロカメムシ：分けつ期～出穂期</p> <p>斑点米カメムシ類：出穂期～乳熟期</p> <p>斑点米カメムシのうち ミナミアオカメムシ：出穂期～黄熟期</p>	<p>1B 2B 2B 2B 2B 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C 4C 4C 4F</p>	<p>ス ミ チ オ ン 乳 剤 キ ラ ッ プ フ ロ ア ブ ル 剤 キ ラ ッ プ フ ロ ア ブ ル 剤 キ ラ ッ プ 粉 剤 D L キ ラ ッ プ 豆 つ ぶ 混 合 剤 ト レ ボ ン 乳 剤 ト レ ボ ン E W ト レ ボ ン 粉 剤 D L ト レ ボ ン 水 和 剤 ト レ ボ ン S E 混 合 剤 ダ ン ト ツ 粒 剤 ダ ン ト ツ フ ロ ア ブ ル 剤 ダ ン ト ツ 粉 剤 D L ダ ン ト ツ H 粉 剤 D L ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 液 剤 1 0 ア ル バ リ ン 粉 剤 D L ス タ ー ク ル 粉 剤 D L ス タ ー ク ル 豆 つ ぶ 混 合 剤 ス タ ー ク ル フ ロ ア ブ ル 混 合 剤 エ ク シ ード フ ロ ア ブ ル 剤 エ ク シ ード 粉 剤 D L エ ミ リ ア フ ロ ア ブ ル 剤 こ の ほ か 以 上 を 含 む 混 合 剤</p>
		<p>休 耕 田 ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田で斑点米カメムシ類対象に散布可能な薬剤</p>	<p>1B 2B 2B 3A 3A 3A 4A 4A</p>	<p>ス ミ チ オ ン 乳 剤 キ ラ ッ プ フ ロ ア ブ ル 剤 キ ラ ッ プ 粉 剤 D L ト レ ボ ン 乳 剤 ト レ ボ ン E W ト レ ボ ン 粉 剤 D L ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ダ ン ト ツ H 粉 剤 D L</p>
19 イネゾウムシ	<p>1. 稚苗移植栽培で被害が多いので、多発地では中苗移植栽培が望ましい。</p> <p>2. 山間地帯で発生が多いので注意する。</p> <p>〈薬剤使用の特記事項〉</p> <p>1. 育苗箱に苗の上から均一に散布する。</p>	<p>移 植 前 育 苗 箱 処 理</p> <p>発 生 期 (田植後 ～2週間)</p>	<p>1A 3A</p>	<p>ガ ゼ ッ ト 粒 剤 ト レ ボ ン 粒 剤</p>
20 イネミズゾウムシ	<p>1. 早期水稲に発生しやすいので注意する。</p> <p>2. ネザサ、チガヤ、ススキ等、イネ科雑草に食害痕がないか調べ、早期発見に努める。</p> <p>3. 移植の早い水田に集中するので、一斉に田植える。</p> <p>4. 健苗を育てる。</p> <p>5. 根腐れは幼虫の被害を助長するので、深水を避け、根が健全に育つようにする。</p> <p>〈薬剤使用の特記事項〉</p> <p>●浸種前(種子吹付処理または塗沫処理)</p> <p>1. ばか苗等の種子消毒の注意事項を参照。</p>	<p>浸 種 前 (種子吹付処理 または塗沫処理)</p> <p>播 種 時 育 苗 箱 処 理</p> <p>移 植 前 (越冬成虫 及び幼虫)</p> <p>育 苗 箱 処 理</p>	<p>28 28 1A 1A 1A 2B 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A</p>	<p>ル ミ ビ ア F S バ デ ィ ー ト 箱 粒 剤 ガ ゼ ッ ト 粒 剤 オ ン コ ル 粒 剤 5 グ ラ ン ド オ ン コ ル 粒 剤 プ リ ン ス 粒 剤 ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤 ア ク タ ラ 箱 粒 剤 ダ ン ト ツ 箱 粒 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 箱 粒 剤 ス タ ー ク ル 箱 粒 剤 ス タ ー ダ ム 箱 粒 剤</p>

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

水稲

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除			
		防除時期	RACコード	薬 剤	
	〔薬剤使用の特記事項〕 ●移植前、育苗箱処理 1. 縞葉枯病の項の散布方法及び注意事項を参考にし、適正に使用する。 ●直まき栽培、播種前（湿粉衣） 1. 過酸化カルシウム剤と同時湿粉衣する。 ●本田初期 1. 防除の目安：越冬成虫密度で株当たり0.3～0.5頭（育苗箱施用を行っている場合は0.5頭）である。 2. 施用後1週間はかけ流しや落水をしない。 3. 越冬成虫の移動盛期（5月中旬～下旬）に移植する作型では、特に減収しやすいので注意する。 4. バック剤等の注意事項は、普通作物参考5参照。		4F 9B 28 28 28 UN 4A・5 28・9B	リ デ イ ア 箱 粒 剤 チ ョ ー ス 粒 剤 混 合 剤 パ デ ィ ー ト 箱 粒 剤 フ ェ ル テ ラ 箱 粒 剤 ヨ ー バ ル 箱 粒 剤 ア レ ス 箱 粒 剤 (混) ガードナーフロアブル ミネクトスター顆粒水和剤 このほか以上を含む混合剤	
		直まき栽培 播種前 (湿粉衣)	4A	ア ド マ イ ヤ ー 水 和 剤	
		本 田 初 期	3A	ト レ ボ ン 粒 剤 このほか以上を含む混合剤	
		5 葉 期 以 降	3A	な げ こ み ト レ ボ ン	
21 イナゴ類 (ハネナガイナゴ)	1. 代かき時に、畦畔近くに吹き寄せられる卵鞘をごみとともにすくい集めて、処分する。 〔薬剤使用の特記事項〕 1. 本虫を対象に防除を実施しているところでは、バッタ類の発生が少ない。	移 植 前 育 苗 箱 処 理	2B 4A 4F 28 UN	プ リ ン ス 粒 剤 ス タ ー ダ ム 箱 粒 剤 リ デ イ ア 箱 粒 剤 パ デ ィ ー ト 箱 粒 剤 ア レ ス 箱 粒 剤 このほか以上を含む混合剤	
		発 生 初 期	2B 2B 3A 3A 4A 4A 4C	キ ラ ッ プ フ ロ ア ブ ル キ ラ ッ プ 粉 剤 D L ト レ ボ ン 乳 剤 ト レ ボ ン 粉 剤 D L ダ ン ト ツ フ ロ ア ブ ル ダ ン ト ツ H 粉 剤 D L エ ク シ ード フ ロ ア ブ ル このほか以上を含む混合剤	
22 スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	1. 発生圃場では、厳寒期に2回以上圃場を耕起する。貝は土の表面から5cm以内の浅い部分に潜っているので、トラクターの耕起深はできる限り浅く、ロータリーの回転数は高く、走行速度は落として耕起する。代かき専用ロータリーを使用するとさらに効果が高い。 2. 水路からの貝の侵入を防ぐため、取水口に9mm目合い程度のネットや金網を設置する。藻やゴミがつまる場合は、玉ねぎネット等でふきながし状にするとよい。 3. 圃場内及び周辺水路の貝や卵塊を除去する。稲を食害するのは殻高15mm以上の貝で、食害期間は移植後2～3週間までなので、特に移植直前から移植後2～3週間は圃場内の貝を重点的に拾い取る。 4. 水深が深いほど被害が大きくなるので、移植後2～3週間はできる限り浅水（1cm程度）に管理する。また、圃場の一部が深くならないように、圃場をできる限り均平に保つことで効果が高くなる。 5. 発生地帯では直播栽培は避ける。 〔薬剤使用の特記事項〕 1. パダン粒剤4の使用上の注意事項 ・パダン粒剤4は食害防止剤であるため、食毒による殺貝剤（スクミノン、ジャンボたにしくん等）と同時に使用しない。併用する場合には、食害防止剤（又は食毒による殺貝剤）の効果が切れてから使用する。 ・パダン粒剤4を施用後、活動している貝の密度が高い場合には、必要に応じて追加防除を行う。 2. 石灰窒素は商品によっては、刈取り後の登録が無いので注意する。 3. 石灰窒素の使用法 ・散布に当たっては、3～4cmに湛水し、1～4日後全面に散布、3～4日放置する。 ・収穫終了後の水田を湛水し、土中の貝のほとんどが水中へ出て活動を開始した時点で散布する。なお散布が遅れ、水深が浅くなると貝が再び土中へ潜り、効果が劣る。 4. 石灰窒素の使用上の注意事項 ・散布作業中の飛散による他作物への被害防止のため粒状石灰窒素を用い、散布に当たっては風のない日を選ぶ。 ・漏水により、水路等へ薬液が流出するおそれのある場合には使用しない。 ・散布後に台風や大雨が予想される場合は、使用しない。 ・隣接圃場に薬液が流出すると、作物に薬害が発生するおそれがあるので、散布は周辺圃場が作物を収穫した後に行う。 ・死亡した貝により強い腐敗臭が漂うので、人家の近くでは使用に注意する。 ・水温が高いほど殺貝効果は優れるので、散布は水稲収穫後できるだけ早い時期で水温の上りやすい晴天の日を選ぶ。	湛 水 直 播 栽 培 播 種 後	— —	ス ク ミ ノ ン ジ ャ ン ボ た に し く ん	
		移 植 直 後 ～ 移 植 後 3 週 間	14 — — —	パ ダ ン 粒 剤 4 ス ク ミ ノ ン ジ ャ ン ボ た に し く ん メ タ レ ッ ク ス R G 粒 剤	
		移 植 直 後 ～ 移 植 後 3 週 間 (発 生 時)	—	ス ク ミ ン ベ イ ト 3	
		刈 取 後	— — — —	石 灰 窒 素 5 0 石 灰 窒 素 5 5 粒 状 石 灰 窒 素 4 0 粒 状 石 灰 窒 素 5 5	

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する